

# うす紅の

(昭和五十四年寮歌)

鶴原文孝君 作歌  
高田和重君 作曲

## 一

うす紅くれなゐの秋あきゆうぐれに  
滅ほろびの風かぜは吹ふき荒すさぶ  
斜しや陽ようかげ射さす日ひに移うつろいて  
傾かたぶく姿すがた痛いたましく  
我わが胸むねに満みつ過いにし日ひの映はえ  
懷おもいは恵迪けいてきと共ともに

## 二

うす紫むらさきの冬ふゆあけどきに  
透すみわたる風底かぜそこ凍こる  
もの音おと絶たえて冷つめたく寒さむく  
暗くらくも映はく空むなしさに  
倒たおれゆくもの今いまこの時ときに  
想おもいは恵迪けいてきと共ともに

## 三

うす靄もやけぶる春はるあけぼのに  
昔せきじつ日の影かげたゆたい惑まどう  
されど緑みどりはまだ若わかくして  
咲さき初そむ花はなの望のぞみもて  
新あたしき日ひのかげろい浮うかぶ  
憧あこがれ恵迪けいてきと共ともに

## 四

うす花はないろの夏なつよい闇やみに  
たまゆら風かぜはさわやけし  
我わが宴うたげにも星降ほしふる幸さちと  
歌うたう寮友らうともらの嬉うれしさに  
憩いえる帆ほにも希おもいありたし  
夢ゆめこそ恵迪けいてきと共ともに

## 五

うつろう四季ときに感おも慨いをこめて  
朽くちゆくものを見みつめつつ  
いまだ乾かわかぬ血けつ涙なみをもて  
ただひたすらに祈いのり捧ささぐ  
唯ただ一しんじつ実みちの迪のこを残のこさむ  
想おもいは恵迪けいてきを永とわ遠とわに  
希おもいは恵迪けいてきよ永とわ遠とわに